

ワシン Non-TX ラッカー サンデング

仕 様 書

和信化学工業株式会社

木工塗料事業部

平成 年 月 日

# ワシン Non-TX ラッカー サンディング

(非トルエン・キシレン塗料)

本品は、塗料中にトルエン、キシレン等のP R T R対象物質を含まない環境を配慮した溶剤系ラッカー塗料です。  
乾燥が早く、肉持ち・研磨性に優れたラッカー仕上げ用中塗り塗料です。

§ ホルムアルデヒド放散等級 : F (日本塗料工業会登録 W01026)  
F は建築基準法における屋内に面積の制限なく使用できる建築材料を示す規格です。

## § 特 徴

1. 塗料中にP R T R対象物質が含まれていない。
2. 乾燥が早く、次工程への手離れが良い。
3. 塗装作業性、レベリング、消泡性が良好。
4. 研磨作業性に優れる。

## § 用 途

家具および住宅室内木質材全般

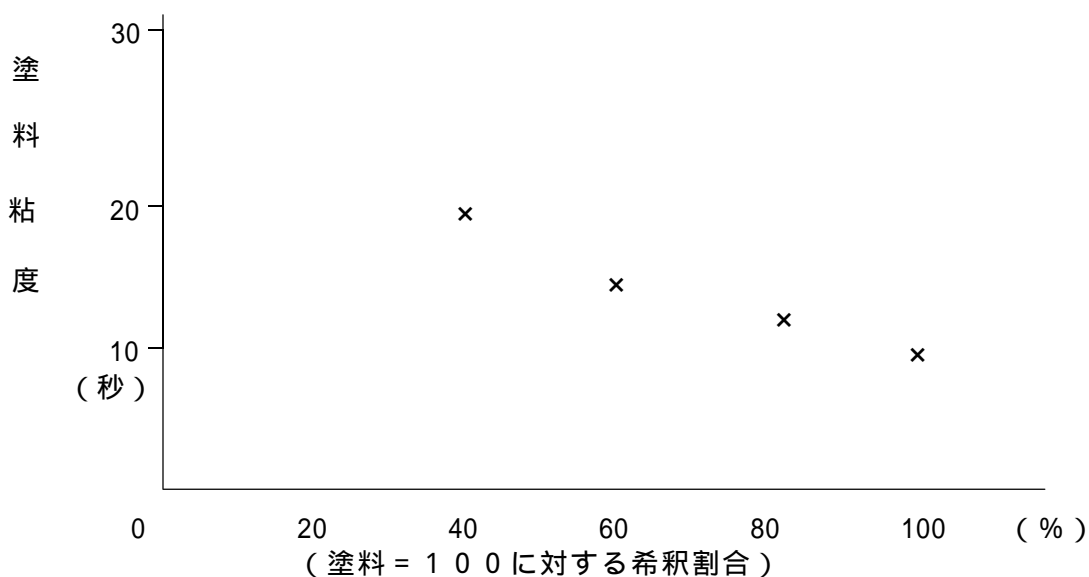
## § 使用 方法

本品は、1液ラッカーの中塗り用塗料です。塗料中に研磨剤が含まれております。  
使用前に必ず缶を逆さまにしてよく振り、充分攪拌して下さい。  
専用ラッカーうすめ液にて適性粘度にし、塗装を行って下さい。  
高温多湿時(梅雨どき)にブラッシング(白化現象)を起こす事が有ります。  
その際には、専用リターダー(「NonTXラッカー リターダー」)をご使用下さい。

### 1. 調 合 割 合 (重量比)

Non-TX ラッカー サンディング	・・・	100
” ” うすめ液	・・・	40～80

### 2. Non-TX ラッカー うすめ液での希釈による塗料粘度 (20 IHSカップ)



### 3. 研磨可能時間

塗料 / うすめ液 = 100 / 100 (室温 24 )

10	15	20	25	30
- - -	40分	30分	20分	15分

### 4. 乾燥性 (うすめ液なしでの乾燥性)

室温 25 40%RH 125 $\mu$  ガラス板へ塗布

	乾燥時間
指触	2分
指圧	7分

### 5. 標準塗装工程 (住宅内装木質材)

工程	使用塗料	配合	塗布量	備考
素地調整	サンドペーパー P-150 にて表面の粗れ、汚れを取り除き、ウエス等にて除塵する			
着色	アクリックス 3000 ホア-ステイン 水道水	100 0~100	60ml/m <sup>2</sup>	色濃度を水にて調整し塗布。 室温で1時間以上乾燥。
中塗り	Non-TX ラッカー サンデング Non-TX ラッカー うすめ液	100 60~100	80~100 ml/m <sup>2</sup>	極端な厚塗りはせず、たれ・ タマりに注意する。 室温で1時間以上乾燥。
研磨	サンドペーパー P-220~320 にて研磨、除塵			
上塗り	Non-TX ラッカー クイヤ-(フラット) Non-TX ラッカー うすめ液	100 60~100	80~100 ml/m <sup>2</sup>	極端な厚塗りはせず、たれ・ タマりに注意し均一に塗布する。 室温で1時間以上乾燥。

塗装する素材や塗装器具により塗布量は変わります。

塗装乾燥後は換気を充分に行ってください。

### 6. 塗膜性能

試験項目		備考
加熱残分	27.9%	原液
粘度	1分10秒	原液 #4フォードカップ
塗装作業性	○	粘度30秒 刷毛塗り
乾燥時間	10分	5ミル ガラス板
塗膜の外観	○	5ミルガラス板 目視
研磨性	○	P320サンドペーパー
耐アルカリ性	○	1%炭酸Na溶液 10分スポット

## § 使用上の注意事項

- 1 . うすめ液は、通常のラッカーシンナーを用いても構いませんが、本品がエコタイプであり、うすめ液も「ワシン Non-TX ラッカー うすめ液」のご使用をお勧めします。
- 2 . 本品は、P R T R 対象化学物質は含んでいませんが、溶剤系塗料であり作業中の換気、火気等に注意して行って下さい。
- 3 . 使用後の塗料は、しっかりと栓をすれば再度使用することができます。  
しかし、開封後の長期保管されたものについては、変質の恐れがあるためご使用は避けて下さい。
- 4 . 塗膜乾燥は、温度、湿度等条件によって変わってきます。したがって、被塗物表面の乾燥状態を確認したうえで次工程に移ることが大切です。また、5 以下では極端に乾燥が遅くなりますのでご注意下さい。
- 5 . 高温多湿時には白化現象（ブラッシング）を起こすことがあります。  
その際には、専用ラッカーリターダー「Non-TX ラッカー リターダー」を添加して対処して下さい。
- 6 . 素材によっては表面のヤニ、油、その他の原因により塗装後のハジキ、ハクリ、白化等が生じる場合がありますので、素地の状態を確認して除去してから塗装を行って下さい。
- 7 . 塗装時、塗料のタレ、コボレにより周囲のものへ付着した場合、シミ、あとが残ることがありますのでご注意下さい。
- 8 . 廃棄塗料および容器は、定められた方法により処理して下さい。

更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート（SDS）をご参照下さい。